



(公財) 山階鳥類研究所
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



世界的な絶滅危惧種の日本への飛来を初確認 宮古島にヒガシシナアジサシ

- ・世界的な絶滅危惧種ヒガシシナアジサシ1羽が、宮古島で観察、撮影され、山階鳥類研究所により種名が確認されました。
- ・ヒガシシナアジサシは、世界の総個体数が100羽に満たないと推定されており、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストでCR（近絶滅種）のカテゴリに分類されています。
- ・ヒガシシナアジサシの日本への飛来は従来から予想されていましたが、確認されたのは今回が初めてです。南西諸島をはじめとする国内のアジサシ類の繁殖地は、リクリエーションその他、人間の利用による繁殖への攪乱などによる悪影響が懸念されており、今後の本種の飛来も含め、生息状況の継続観察が望まれます。

観察撮影したのは、沖縄科学技術大学院大学の動物学研究者ヴラディミル・ディネッツ博士で、2018年10月20日、宮古島の伊良部大橋を自動車で行き、海上を飛行するこの鳥を発見し写真撮影しました。写真の送付を受けた山階鳥類研究所の尾崎清明副所長が、このアジサシ類をヒガシシナアジサシと確認しました。



撮影されたヒガシシナアジサシ
(2018年10月20日宮古島
ヴラディミル・ディネッツ博士撮影)

ヒガシシナアジサシ *Thalasseus bernsteini* (カモメ科)

全長 38～43cm

ヒガシシナアジサシは中国東部沿岸の小島嶼で少数が繁殖するカモメ科の海鳥で、現在の総個体数は、バードライフインターナショナルによれば、100個体を下回ると推定されています。国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストのカテゴリはCR（近絶滅種。野生個体群が存在している中でもっとも絶滅が危惧されているカテゴリ）。

本種は1937年に山東省沿岸の島嶼で合計21個体の標本が採集された後は散発的な観察例があるのみで、絶滅が心配されていましたが、2000年に福建省沿岸の馬祖（マズ）列島で繁殖しているのが再発見され、2004年に浙江省沿岸の葦山（ジョウシャン）列島でも繁殖地が発見されました。現在、浙江省沿岸の葦山列島、五峙山（ウーシィシャン）列島に合計で50個体程度、福建省沿岸の馬祖列島に5～10個体程度が繁殖期に生息しています。台湾海峡の澎湖列島も繁殖地として知られていますが現状は不明です。さらに朝鮮半島南西沖のチルサンドでも繁殖期に少数が観察されています（最近の繁殖状況はバードライフインターナショナルによる）。過去には中国山東省沖でも繁殖していました。非繁殖期の生息状況の詳細は不明ですが東南アジアで越冬します。

中国の繁殖地では人為的攪乱、特に食用のための卵の採集が保全上の大きな問題と考えられます。2013年から、葦山列島鉄墩（ティエドゥン）島の繁殖地で、デコイ（実物大の模型）と音声を使った誘引による保全活動が、バードライフインターナショナルと地元政府（象山海洋漁業局）、浙江省自然博物館、香港観鳥会およびアメリカのオレゴン州立大学の共同事業により行われています。



ヒガシシナアジサシが今回撮影された宮古島と、本種の繁殖地

この件についての問い合わせ先

平岡考 山階鳥類研究所

広報コミュニケーションディレクター

電話：04-7182-1101

Eメール：hiraoka@yamashina.or.jp